

つながる 社会的養護の社会化フォーラムを通して、松阪地域にも子どもに関わる活動をしている団体はたくさんあることがわかりました。各団体がつながり合えるように、このコーナーで紹介させていただきます！

Vol.3 特定非営利活動法人 TEAM 創心



代表の小山隆幸さんは2016年9月に市民団体を立ち上げ、障がい児親子と出かけたり、勉強会などを開いたりして、2017年11月に現在のNPOを設立しました。2018年5月には松阪市嬉野地域で重症心身障がい児を対象とした児童発達支援・放課後等デイサービス「そうしん」を開所しました。活動のきっかけは、自身に子どもが生まれて様々な市民活動にボランティアとして参加するうちに、重度の障がいをもつ子どもたちの居場所がなく苦労している家族の状況を知ったことです。作業療法士で3人の子どもの父親という立場から、家族の負担を減らすこと、障がいがあっても楽しむこと、地域とつながりを持つことを大事にしています。就学前後の家族の負担は大きく、「働きに行けるようになった」という利用者の方もいるそうです。地域の社会福祉協議会や小児科、民生委員とも繋がりを大切に持って運営しています。今後は18歳以上の一時支援事業も始め、継続した支援を提供していきたいと話されていました。



お知らせ

チャイルドヘルプライン MIE ネットワーク
オンライン相談（チャット）実施中
学校のこと、友だちのこと、
家族のこと、自分のことなど、
チャットで話してみませんか。
どんなことでもOKです。
開設日
毎週土曜日 19:00~21:00

●チャイルドラインMIE
(きいてほしいな...)
子どもの心を受け止める
18歳までの子ども専用電話
0120-99-7777
毎週 月曜日～日曜日
午後4:00～午後9:00

●こどもほっとダイヤル
(助けて！も言える)
子どもだけが相談できる
18歳未満の子どものための相談電話
0800-200-2555
毎日 午後1:00～午後9:00
(12月29日～1月3日はお休み)



●この会に賛同し、会を支えてくださる個人・団体の方を募集しています●
個人正会員・参加会員：年 8,400円 賛助団体会員：年 1口 10,000円 支援会員：年 1口 3,000円
※入会金：300円

会員数 正会員：24名 参加会員：3名 支援会員：84名 賛助団体会員：26団体 (3月15日現在)

特定非営利活動法人 松阪子どもNPOセンター
〒515-0084 松阪市日野町788 カリヨンプラザ1F (開所日・時間 月～金 10:00～17:00)
TEL 0598-20-8344 FAX 0598-20-8345 ホームページ <http://www.mknpo.jp/> eメール info@mknpo.jp

【賛助団体会員】(敬称略)	・医療法人 河合産婦人科	・鎮守の森を夢見る会・その二	・株式会社 富士土地
・医療法人 イワサ小児科	・医療法人 桜木記念病院	・東海印刷株式会社	・松阪市健康体操連絡協議会
・うれしの 太田クリニック	・株式会社 阪本事務機	・東海シール株式会社	・まんのう整形外科
・株式会社 SK スズキ	・ささおこどもクリニック	・飛岡雅子	・医療法人 南産婦人科
・大久保クリニック	・株式会社 ジェントリー	・ナガフジ産業有限会社	・医療法人社団 鷺尾小児科
・おおたクリニック	・上瀬クリニック	・はせがわこどもクリニック	・他一団体
・岡田パッケージ株式会社	・医療法人 地主矯正歯科クリニック	・健康体操 ひまわり会	

K O D O M O 21 Spring NO.204
2019年 4月 1日
発行元：特定非営利活動法人 松阪子どもNPOセンター

子どもたちがのびやかで豊かな「子ども時代」を過ごすために

ゆきあそびツアー

日時 2月2日(土)
場所 奥伊吹山スキー場
参加者 大人31名 子ども34名 合計65名

2月は、毎年インフルエンザが流行るので、参加者の皆様も当日までの体調管理に大変だったと思います。私たちスタッフもうがい、手洗い、マスクと予防に気をつけて当日を迎えました。雪があるのはわかっていたのですが、スキー場付近に行くまでは雪がなく心配しましたが、いつものように、いい雪で楽しく一日を過ごせました。スキーやそりあそび、雪だるま作りをする家族がありました。松阪地域、近隣地域の子どものために、降り積もっている雪景色のなかで思い切りあそび体験がないので、いい機会だったと思います。当センターでは、子どもたちがいろいろな体験を通して、感じ育ってほしいと思います。これからも子どもにとっての活動を創っていきます。

<参加者の方の声>

今回で3回「ゆきあそびツアー」に参加させていただきました。1回目の時は、子どもは初めての雪山で、一面の雪を見ただけで大興奮！ソリとゆきあそびを中心に遊び、2回目は、ソリと初スキー。最初はスキー板を履くだけで悪戦苦闘？…足が痛い！立てない！もうやめる！…(笑い)それでも、今回の参加も楽しみにしていました。今回は、ソリやゆきあそびもしましたが、スキーメイン。嫌がらずに、楽しく一緒(後ろから抱きかかえる感じ)に滑り、リフトにも乗れました。子どもの成長が感じられるツアーでした。

初めてのスキーで前に進めずスキー板と格闘していた息子も、1時間半たらずのスキー教室で八の字でゆっくり前に進んで止まれるようになりました。前日学校でみんなにスキーに行くって話していたようで、すごく楽しみにしていたみたいです。きっと満足な一日だったと思います。

初スキーにドキドキしていた子どもたちでしたが、スクールに入り、少し滑れる様になりました。そり遊びやかまくら作りも体験し、親子で楽しんだ1日でした。

子どもたちは写真を見て、「あー！スキーに行きたい」と毎日のように言っています。今年で4回お世話になり、子どもたちも徐々に1人で雪の中をそれぞれ楽しんでくれるようになり本当に感謝しています。極めつけはスタッフの方から「来年は、お母さんもスキーしたら？」スキーが出来るなんて！？年ぶりにスキーが出来るかもしれない、わくわくに今から胸のドキドキがとまりません。



ファミリーサポートセンター事業



援助会員は年2回開催する5日間の援助会員養成講座を受講完了した後に登録となります。活動件数は、月間150件を超えています。内容としては、保育園や学童への送迎、習い事への送迎が多く、お迎えに行きそのまま援助会員の自宅でお預かりする援助もあります。入会は、育休明けでお母さんが復職する際や、お子さんが入園する時等があります。実家が遠く知り合いもいない依頼会員が多くみえます。実際に利用する機会はなくとも、何かの時の助けになると、安心してもらっています。仕事が忙しい時や体調が悪い時など、ちょっと困った時に利用してもらっています。

まずは気軽に入会してほしいと思います。

依頼会員 394名
援助会員 233名
両方会員 45名
合計 672名
(3月末現在)



地域の中での子育て支援

(特)松阪子どもNPOセンターは・・・

今、核家族化が進み、地域の中での関係が希薄になっている中で、養育者は相談する人もなく孤立し、さらに膨大な情報の中で正解か否かが気になり自信が持てず、不安の中で子育てをしています。(特)松阪子どもNPOセンターは、ファミリーサポート事業、チャイルドライン事業を柱とし、地域の中で子どもと子育てを支援する事業を展開しています。私たちは、子どもの育ちに大人が関わる必要で、地域で生活している人々がその資源だと考えています。また子どもに関わることで、大人も自分自身が問われ、気づき、学ぶ機会となっています。「子どもを1人の個人として尊重し、子ども自らが持っている力を信じ、子どもの気持ちを聴き、寄り添う」ということを大切にし、地域で子どもに関わる支援者を増やしていくことが、「子どもが自分らしくのびやかに育つ」ことにつながると考えています。

養育支援訪問事業

家事育児が困難な家庭へ2人1組で訪問し養育者に寄り添い、子育てや家事の手助けをしながら、養育者と子どもの自立を支援します。

サポーターになるには、子ども・子育てサポーター養成講座(5講座)を受講していただき、面接を受けていただきます。

児童養護施設入所児童への学習支援事業

週1回1時間、児童養護施設の小学生と向き合い寄り添うことで、子ども自らの力で学習し新たなことに取り組む力をつけることをサポートしています。

サポーターになるには、研修会・オリエンテーションを2時間受講していただき、面接を受けていただきます。

体験事業

あそび体験・文化体験・自然体験などを通して「生きる力」をつけてほしいと願い体験活動をしています。子どもたちの取り巻く環境は年々変化してきていますが、『子ども主体』となる活動をつづけていきたいと思っています。



里親普及啓発事業

様々な事情で自分の家庭で暮らせない子どもたちがいます。その子どもたちを受け入れる里親について知っていただき、里親が増えるために広報、啓発をしています。

チャイルドライン事業

子ども達からかかってくる電話は、自分の事を知らせなくてもいいことから深刻な内容の電話も多くかかってきます。体の悩みや友人関係など、身近な人には言えないことも、評価や判断などをしない電話なので安心して話す子どももいます。「あなたのことを大切に聞いているよ」という事が伝えられるラインでありたいです。

【実施】

受け手・支え手・担当23名のボランティアで活動しています。

チャイルドライン・こどもほっとダイヤル・オンライン相談をローテーションで実施しています。受け手・支え手になるために、今年度も6月から子ども支援者養成講座があります。

【ファンド活動】

募金など目標をたて、様々な取り組みをしています。ご協力いただいたお金は電話設置にかかる費用や子どもたちに配付するカード代、研修、組織運営費用などに使わせていただいています。



チャイルドラインチャリティ映画会
「いのちのはじまり～子育てが未来をつくる～」
日時 2019年3月2日(土)10:00～14:00～
場所 農業屋コミュニティ文化センター

今年で8回目となったチャイルドラインチャリティ映画会「いのちのはじまり～子育てが未来をつくる～」は、世界9か国での様々な環境下での育児を見つめたドキュメンタリーでした。親子で来られた方や、小さな子どもをもつ方、祖父母世代、教育関係、行政関係などいろいろな立場の方々が観にきてくださいました。アンケートでも「たくさんの人に観てもらいたい」「社会全体で子育てを支える必要がある」などの感想が多くありました。乳幼児期の子どもの関わり方がとても大切であること、そのためには母親などの養育者を支援する環境も必要であることがとてもよくわかりました。

